



国際医療福祉大学塩谷病院 看護部だより

令和 6 年能登半島地震 国際医療福祉大学塩谷病院 DMAT の活動報告

当院 DMAT（災害派遣医療チーム）の 5 人は 1 月 6～8 日の予定で派遣されました。初日は石川県七尾市の公立能登総合病院から輪島市役所に向かい、輪島市保健医療福祉調整本部内の DMAT 本部で活動を開始しました。

輪島市では約 170 の避難所が設置され、自衛隊以外は近づけない孤立した避難所も 30 以上ありました。多くの建物・道路が損壊し、電気は部分的に通っているものの、全域で断水が続いていました。7 日からは大雪による厳しい冷え込みに加え、生命線とも言える県道が積雪の影響で通行止めとなりました。

私たちは、医師、看護師の計 3 人が福祉施設担当班として、業務調整員 2 人は本部のロジスティックsteam 要員として活動を行いました。福祉施設担当班は、施設の被害状況や必要な支援内容の取りまとめを行い、本部ロジスティックsteam は、各方面との連絡調整業務を担いました。

8 日朝に県道の通行止めが解除され、新たな支援チームが少しずつ輪島に入ってきました。一方、避難所や福祉施設で新型コロナウイルスやインフルエンザ、感染性胃腸炎に感染する避難者が増え始め、状況の悪化は気がかりでしたが、後続隊に対応を託し、活動を終えました。

当院に帰着したのは 9 日未明。私たちが不在の間はもとより、被災地の道路状況から帰着が遅れる可能性も想定し、院内でさまざまな業務の調整を行っていただきました。DMAT の活動はこうした多くの仲間を支えられて成り立つものです。

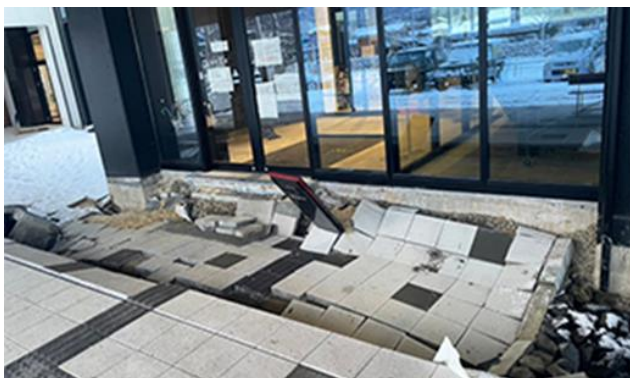
（医師：一瀬雅典、看護師：田代紘子・高橋晃、業務調整員：土屋結有花・伊沢雛子）



活動メンバー



福祉施設に簡易トイレを届ける業務



輪島市役所の玄関



輪島駅前の傾いた信号機